加湿器
HM – C610S

取扱説明書

日本国内専用（Use only in Japan）

目次

1　安全上のご注意
3　設置について
4　各部のなまえとはたらき
5　本体の組み立て
7　タンクに水を補給する
8　アロマオイルを使う
9　使いかた
11　お手入れのしかた
14　故障かな？と思ったときは
15　仕様

cado

安全上のご注意 必ずお守りください

商品および取扱説明書には、お使いになる人やほかの人への危害、財産への損害を防止するために、重要な内容を記載しています。次の内容（表示・図記号）をよく理解してから本文をお読みください。
内容を無視して、誤った取り扱いをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

表示の説明

警告 「死亡または重傷を負うおそれがあること」を示します。

注意 「軽傷を負う、または家財に損害を与えるおそれがあること」を示します。

図記号の説明

禁止 「してはいけない禁止事項」を示します。

指示 「必ずしなければならない強制事項」を示します。

警告

禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電の原因になります。

電源コードを傷つけない。
電源コードを傷つけると、ショートや断線して感電や火災の原因になります。
電源コードについて、下記のことを守ってください。

- 加工したり、傷つけたりしない。
- 無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、束ねたり、重いものをのせたりしない。
- 熱器具に近づけない。
- 加熱しない。
- 電源プラグを持たずに引き抜かない。
- 持ち運び時に電源コードを引っ張らない。

交流100V以外で使わない。
火災や感電の原因になります。

幼児に電源プラグをなめさせない。また、本体に触らせない。

分解、改造、修理しない。
火災や感電、けがの原因になります。
修理はお買い上げの販売店、または最寄りのお客様ご相談窓口にご相談ください。

吹出口からの噴霧気は、故意に吸入しない。

異臭や、機器の異常を感じたときは、使用を直ちに中止する。
使用を中止してお客様ご相談窓口にご相談ください。

吹出口、超音波振動部、本体のすき間に針金などの金属を入れない。
感電・ショート・発火の原因になります。

お手入れに塩素系、アルカリ性の洗剤を使わない。
洗剤から有毒ガスが発生し、健康を損なう原因になります。

指示

電源プラグは、根元までしっかり差し込む。
差し込みが不完全だと、感電や火災の原因になります。

- 電源コードや電源プラグが傷んだり、差し込みがゆるいコンセントは使わない。

電源プラグのホコリなどは、定期的に乾いた布で拭き取る。
ホコリがたまると、湿気などで絶縁不良になり火災の原因になります。

- 長時間使わないときは、電源プラグをコンセントから抜く。

使用しないとき、お手入れ、点検、移動の際は必ず運転を停止し、電源プラグを抜く。
電源プラグを差し込んだままにすると、感電やけがの原因になります。

⚠注意

禁止

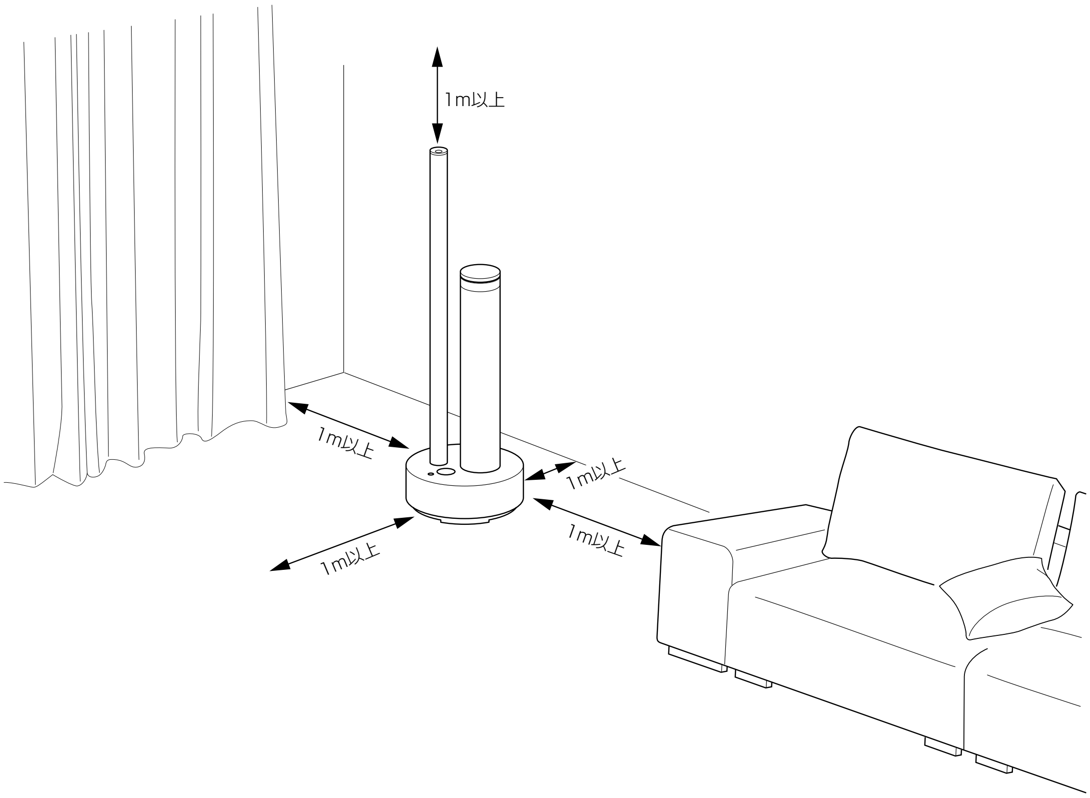
- **タンクに水道水以外の水は入れない。**
  飲料用の水道水は抗菌処理がされているため、カビや雑菌が繁殖しにくく、加湿器の使用に適しています。
  入れてはいけない水：
  浄水器により浄化した水、アルカリイオン水、ミネラルウォーター、井戸水、汚れた水、40℃以上の温水、化学薬品、芳香剤、洗剤を入れた水
- **超音波振動部のお手入れは週2回以上必ず行う。**
  堆積物が多量に付着すると、故障の原因になります。
- **除菌機能搭載カートリッジを交換しないまま、長期間使用しない。**
  除菌機能搭載カートリッジの効果がなくなると、雑菌が繁殖したり、異臭が発生することがあります。約6ヶ月を目安に交換してください。
- **タンクやダクトをはずしたまま使用しない。**
  水が噴き出して、周辺の内装品に損害が出るおそれがあります。
- **衣類・カーテン・壁などの側で使用しない。壁や窓から必ず1m以上離して使用する。**
  シミ・変色する原因になります。
- **テレビやラジオ、ビデオ、コードレス電話、エアコンなどの機器から1m以上離す。**
  テレビ画面のチラつきや、雑音が入るなどの電波障害が起こることがあります。
- **お子様が玩具として遊ばないよう注意する。**
  本体を転倒させると水が漏れ、周辺の内装品に損害が出るおそれがあります。
- **本体を水に浸したり、丸洗いしない。**
  底部の電気部分に水が入ると、ショートや故障の原因になります。
- **凍結に注意する。**
  凍結のおそれがあるときは、本体の水を捨ててください。
- **本体を傾けない。**
  タンクに水を入れたまま本体を傾けると、水がこぼれるおそれがあります。
- **タンクを本体にセットした後は、タンクの取り付け・取り外しをむやみに繰り返さない。**
  水が溢れるおそれがあります。
- **本体の上に物を置いたり、乗ったりしない。**
  転倒により、破損・故障の原因になります。
- **本体をさかさまにしない。**
  故障の原因になります。

指示

- **排水方向表示に従って水を捨てる。**
  本体内部の基板などに水が入ると、ショートや故障の原因になります。
- **本体を持ち運ぶ際には、本体と本体カバーを両手でしっかり持つ。**
  本体カバーのみを持つと、持ち運び中に本体が本体カバーから外れて落下するおそれがあります。
- **本体のお手入れは週2回以上を目安に行ってください。**
  本機の抗菌機能はカビや雑菌の発生・抑制を保証するものではありません。したがって、お手入れを行わずに使用し続けると、カビや雑菌が繁殖したり、汚れや水垢で加湿量が低下したりすることがあります。
  また、まれにアレルギー体質などの方が過敏に反応し、健康を害するおそれがあるので、必ずお手入れをしてください。

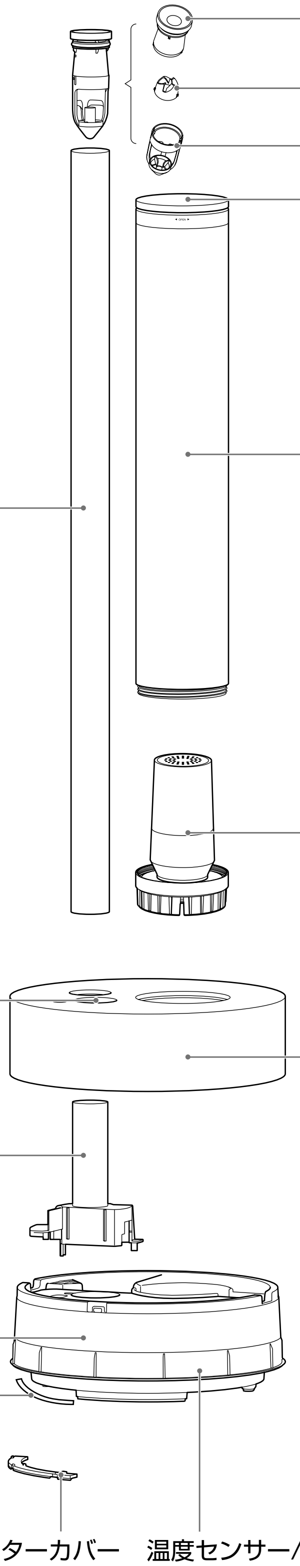
設置について

本機を使用するときは、図のように壁や周囲から充分な距離を保ってください。また、本機を設置する際には下記の点に注意してください。

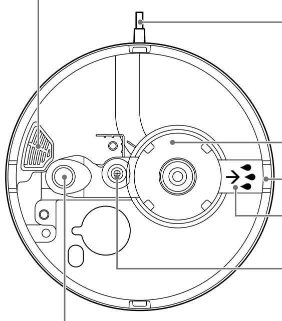


- 窓や壁からなるべく離れた場所に置く。
  窓や壁に霧がかかると、水滴となって窓や壁、床に付着し、カビなどが発生することがあります。
- 吸気口・吹出口をふさがず、室内の空気がよく循環する場所に置く。
  性能低下や故障の原因になります。
- 下記の場所では使用しないでください。
  - 物が落下するおそれのある場所、凹凸がある場所
    不安定な物が置いてある棚などの下や、凹凸がある不安定な場所では使用しないでください。思わぬ事故や誤作動の原因になります。
  - 霧が家具、壁、カーテン、天井、電気製品などに直接あたる場所
    湿気による故障、しみ、変形の原因になります。
  - 電磁調理器やスピーカーの近くなど、磁気の多い場所
    本機が正常に動作しないことがあります。
  - 傾斜がある場所や不安定な場所
    本機が傾くと、本体の転倒、水漏れ、加湿量の変化、水位検出の誤動作による運転停止などの問題が発生することがあります。
  - じゅうたん、電気カーペット、ふとんなどの上
    毛足が長いじゅうたんや、ふとんの上などに置くと、吸気口がふさがれて霧が出にくくなります。また、内部温度が上昇して水があふれたり、安全装置が誤作動することがあります。
  - 直射日光があたる場所、暖房機の上、暖房機の近くや温風があたる場所
    本機が変形または変色することがあります。

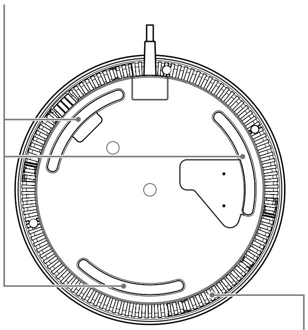
各部のなまえとはたらき



上部（本体の内部）

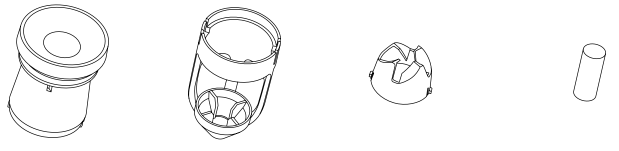


底部



吹出口アクセサリー

出荷時には吹出ノズルのみが、ダクトに取り付けられています。ノズルには用途によりアロマトレイと拡散フィンを取り付けることが可能です。



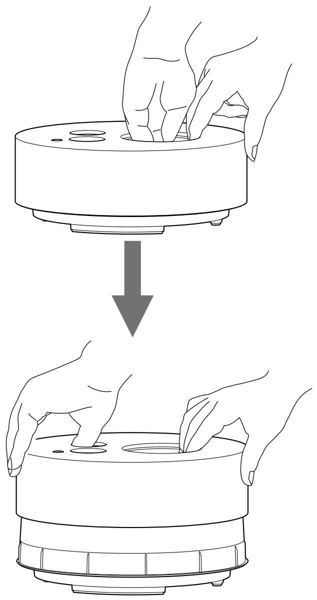
吹出ノズル（出荷時取り付け済み）　アロマトレイ（☞8ページ）　拡散フィン（☞10ページ）　吸水芯（5個）（☞8ページ）

本体の組み立て

初めて使用する場合は、下記の手順に従いダクトとタンクを本体に正確に取り付けるようにしてください。

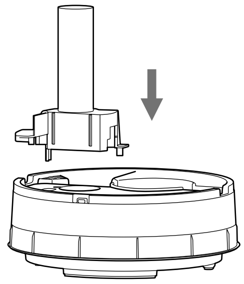
1 **本体カバーを取りはずす。**

本体の水槽部に手を入れ本体を押さえます。もう一方の手で、本体カバーの側面をつかんで持ち上げます。

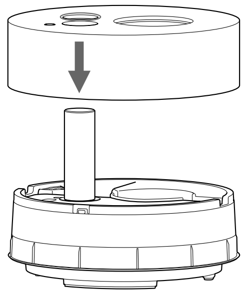


2 **ダクトホルダーを本体に取り付ける。**

ダクトホルダーを矢印の方向に取り付けます。

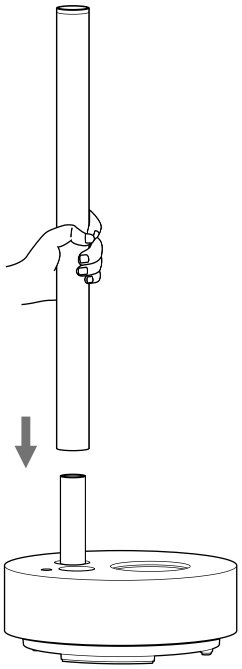


3 **本体カバーにあるダクトの穴位置をダクトホルダーに合わせ、本体に取り付ける。**



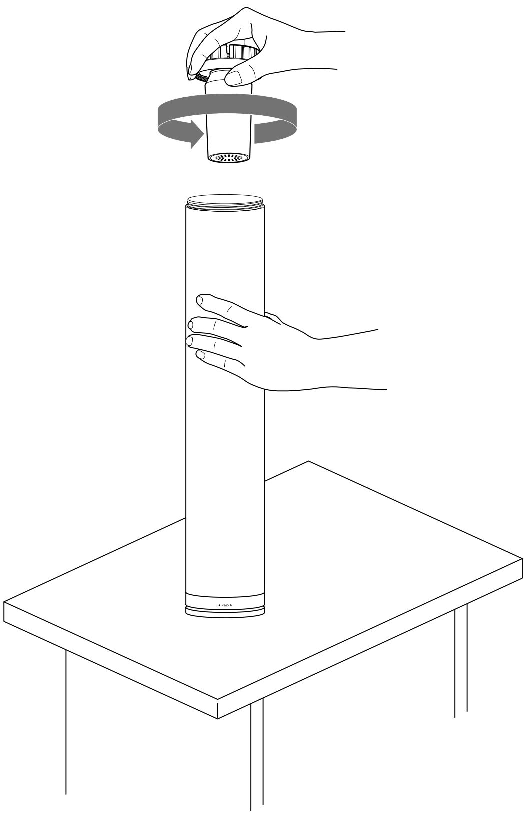
4 **吹出口を上に向け、ダクトを取り付ける。**

本体カバーにあるダクトの穴位置にダクトを矢印の方向に差し込みます。



5 除菌機能搭載カートリッジを取り付ける。

除菌機能搭載カートリッジを時計回りに回して取り付けます。

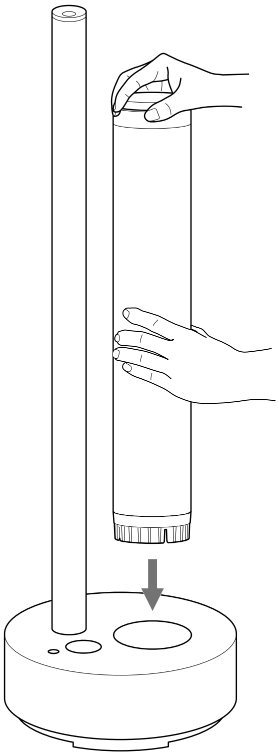


ご注意

カートリッジを取り付ける前に水を入れないでください。

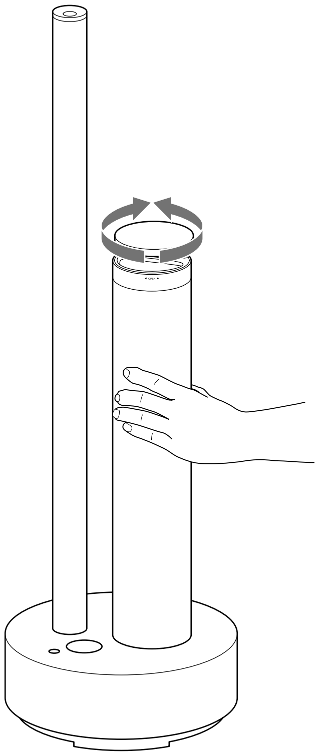
6 タンクを取り付ける。

本体に差し込みます。



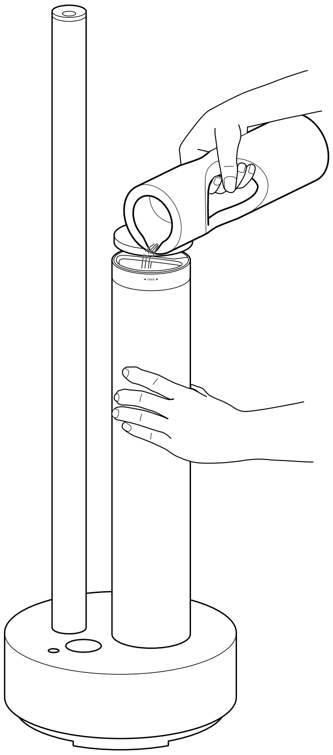
タンクに水を補給する

1 **タンク蓋を開ける。**
タンク表面の「OPEN」の文字を正面にして、タンクを押さえながら、蓋を左右どちらかに回して開けます。



ご注意
- 蓋を開ける前に、必ず電源を切ってください。
- タンク表面の「OPEN」の文字を正面にして蓋を回さないと、回した蓋がダクトにぶつかります。
- タンク上部（蓋）は密閉構造ではありません。
  逆さまにすると水が漏れますので、ご注意ください。
- タンク上部（蓋）を塞がないでください。密閉するとタンクから本体に水が供給されなくなります。

2 **水道水を入れ、タンク蓋を左右どちらかに回して閉じます。**



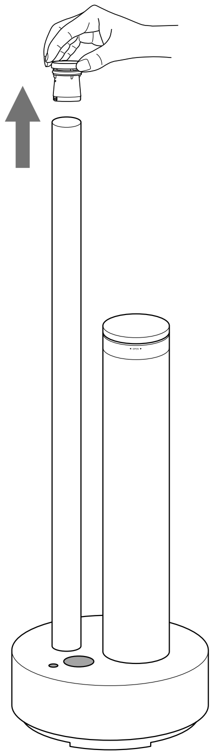
ご注意
- タンクの水が濁ったり、沈殿物が生じることがありますが、異常ではありません。
- 水槽に直接給水しないで必ずタンクに給水してください。
- タンクを扱うときは、安全のため必ず両手で支えながら持ってください。
- タンクに水を入れたら、水が漏れないことを確認してください。
- タンクを本体にセットした后は、タンクの取り付け、取り外しをむやみに繰り返さないでください。
- 水は必ず水道水を使用してください。タンクに汚れた水、洗剤などは入れないでください。
  タンクが変形する可能性があるので、40℃以上のお湯は使用しないでください。
- 水に薬品を加えないでください。
- アロマオイルなどの精油を使用する場合は8ページの入れ方にしたがってご使用ください。

タンクの水の捨て方

タンクを持ち上げ本体より取りはずします。蓋を左右どちらかに回して開け、下方に傾け水を捨てます。

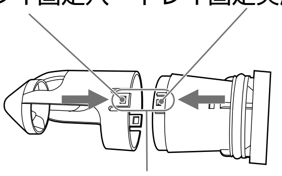
アロマオイルを使う

1 吹出ノズルをダクトからはずす。
吹出ノズルの上部をつかみ、上向きに引き上げてダクトから取りはずします。

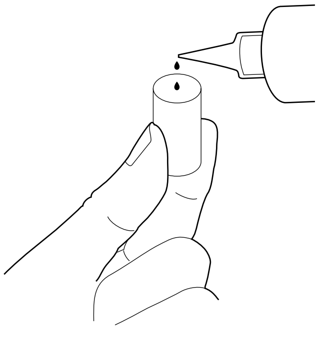


ご注意
アロマトレイをはずす前に、必ず電源を切ってください。

2 吹出ノズルにアロマトレイを装着する。
吹出ノズルにあるトレイ固定穴（両側面2箇所）に、アロマトレイのトレイ固定突起（両側面2箇所）をはめ込みます。

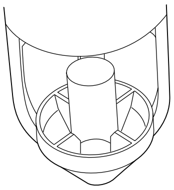


3 吸水芯にアロマオイルを数摘注ぐ。
付属の吸水芯を一つ取り出し、アロマオイルを数滴注ぎます。



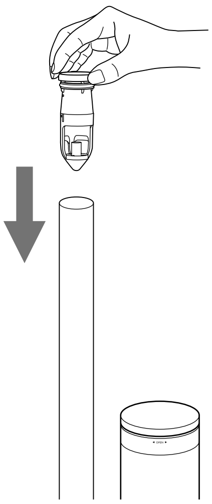
アロマオイルはカドー推奨のアロマよりお選びください。
詳細はカドーホームページ
(http://cado.co.jp)をご覧ください。

4 吸水芯をアロマトレイに装着する。
下図のようにアロマトレイの中心の溝にしっかり収めてください。



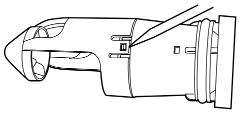
ご注意
- アロマトレイに直接アロマオイルを入れないようにしてください。
- 本体にアロマオイルが付着した時はふきとってください。付着したまま放置すると故障の原因になります。

5 アロマトレイをダクトの上方に取り付ける。



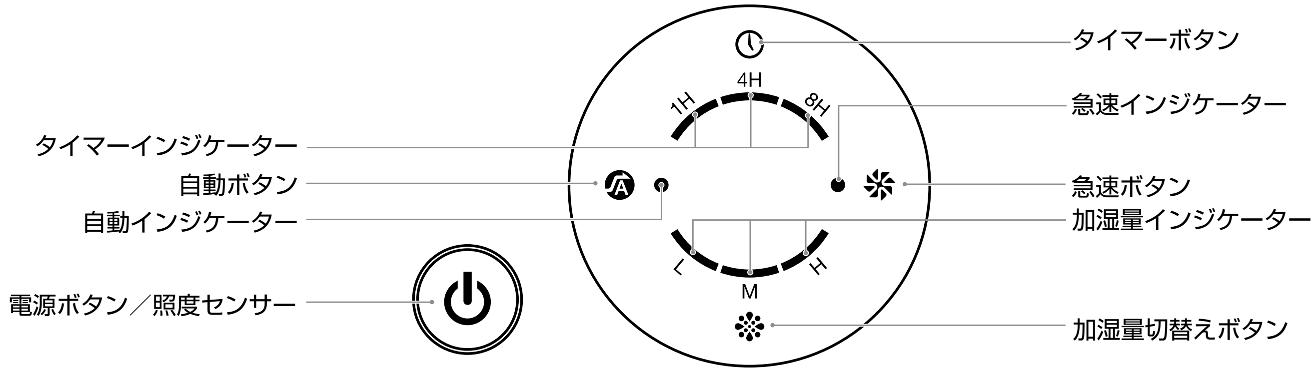
アロマトレイの取りはずし方

細い棒などをアロマトレイと吹出ノズルの結合部のすきまに挿入し、てこのようにトレイ固定穴を押し上げてはずします。



使いかた

操作パネル



運転を開始する

1 **電源プラグをコンセントに差し込む。**

ご注意

外出時や長時間使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。

2 **電源ボタンを押す。**

自動インジケーターおよびタンク内のインジケータが点灯し、自動運転が始まります。

運転中に電源ボタンを押すと、運転が停止し、点灯していた操作パネル上のインジケーターおよびタンク内インジケーターが消灯します。

自動運転にしたいとき

自動ボタンを押す。

お部屋の温度、湿度を感知し、最適な状態になるよう加湿量を切り替えて運転します。

ご注意

本製品は快適な湿度になるよう、温度に合わせて加湿量を制御しています。同じ湿度でも、温度により加湿量が異なります。

急速運転にしたいとき

急速ボタンを押す。

急速モードは2時間運転後、自動的に自動モードに切り替わります。

加湿量を変えたいとき

加湿量切替えボタンを押す。

押すたびに、「ピッ」と音がして加湿量が変わります。選択された加湿量インジケーターが点灯します。

→L（弱）──→ M（中）──→ H（強）┐

運転時間を設定したいとき

タイマーボタンを押す。

押すたびに、「ピッ」と音がして設定時間が変わります。選択されたタイマーインジケーターが点灯します。

→ 1H → 4H → 8H →オフ┐

設定した時間が経過すると、電源は自動的にオフになります。

湿度の状態

部屋の湿度により、タンクの湿度インジケーターの色が変わります。

色	部屋の湿度の状態
黄	乾燥
緑	↕
青	潤う

タンクの水が無くなると、湿度インジケーターが赤く点滅します。タンクの水を補給してください（給水は☞ 7ページをご覧ください）。

照度センサー

周囲の明るさを感知し、暗くなると、点灯しているインジケーターの照度が落ちます。

霧を拡散して噴出させたいとき

吹出ノズルに拡散フィンを装着することにより、霧を拡散して噴出させることができます。

拡散フィン取り外し時　　拡散フィン装着時

拡散フィンの装着のしかた

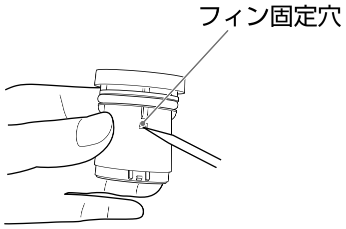
1 **吹出ノズルの内側へ拡散フィンを図の向きで挿入する。**

2 **フィン側面の固定突起（2箇所）を吹出ノズルのフィン固定穴にはめ込む。**

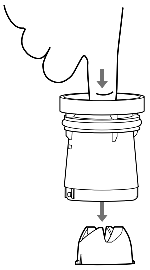
カチッと音がするまで完全にはめ込んでください。

拡散フィンの取り外しかた

1 **細長い棒などで、アロマトレイ側面のフィン固定穴（2箇所）を押し、はまっているフィン固定突起を内側に押し込む。**



2 **吹出口より指を入れ、内側に軽く押す。**



ご注意

取り外した拡散フィンは紛失しないよう、大切に保管してください。

お手入れのしかた

お手入れするときのご注意

- **お手入れする前には、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。**
- **本機に水をかけないでください。**
  感電、けが、故障の原因になります。
- **アルコール、シンナー、ベンジン、みがき粉などは使用しないでください。**
  本機を傷めるおそれがあります。
- **使用中にお手入れしないでください。**
  感電やけがの原因になります。
- **お手入れに塩素系またはアルカリ性の洗剤は使用しないでください。**
  有毒ガスが発生する原因になります。

タンクの掃除をする

タンクに水を入れ、充分にすすぎ洗いしてください。

本体の掃除をする（1週間に2回 以上）

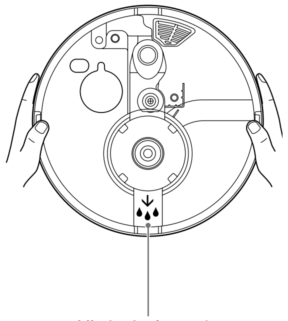
1 **ダクト、タンク、本体カバー、ダクトホルダー、をはずし、水槽の水を捨てる。**

図のように、排水方向の表示の矢印が下を向くように水槽を傾け、水を捨ててください。

ご注意

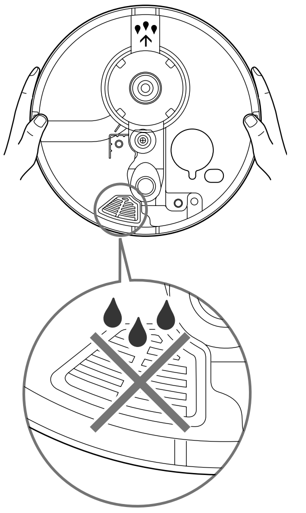
水槽の排水方向の表示を必ず守り、ファン吹出口に水が入らないように注意してください。水が内部に入ると、故障の原因になります。

正しい方向



排水方向の表示

間違った方向

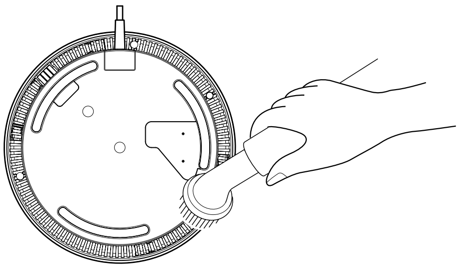


2 **よく絞ったふきんで本体の内部と超音波振動部の汚れを拭き取る。**

水槽や超音波振動部に粉のような物が沈殿することがあります。これはゼオライトの成分で、害のある物ではありませんが、この状態で使用した場合、**加湿性能や動作に影響が出る可能性があるので、定期的に綿棒やスポンジなどの柔らかいもので掃除してください。**また、故障の原因となるため、超音波振動部の表面を金属のブラシなどで絶対にこすらないでください。

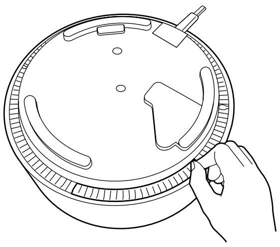
3 **吸気口の掃除をする。**

本体底面の吸気口に付着したホコリは、掃除機などで取り除いてください。

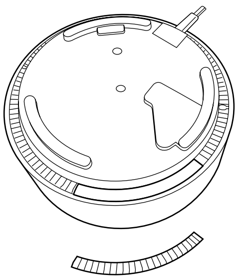


4 **3の手順でホコリが取れない場合、エアーフィルターを本体から取りはずして水洗いする。**

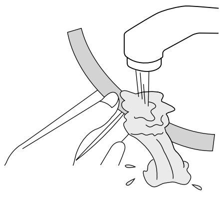
① **本体の底面を上に向け、フィルターカバーの取っ手を時計回りに押す。**



② **フィルターカバーをはずす。**



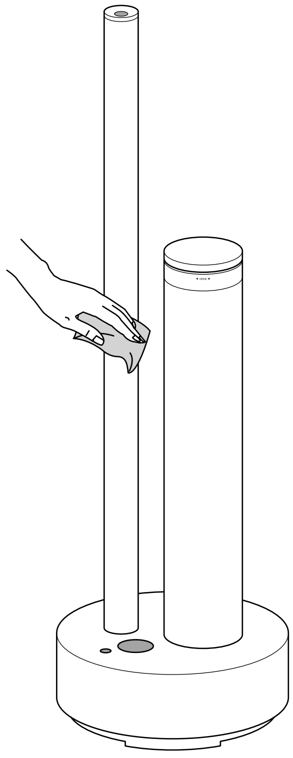
③ エアーフィルターを本体から取りはずして水洗いする。



④ 洗った後は日陰で自然乾燥させた後、本体に取り付ける。

5 本体の汚れを取る。

柔らかい布で拭いてください。落ちにくい汚れは、中性洗剤溶液に浸した布を固くしぼって拭き取り、その後水拭きして本機に洗剤が残らないようにしてください。



6 除菌機能搭載カートリッジを交換する。

除菌機能搭載カートリッジは約6ヶ月に1回交換してください。
交換用の除菌機能搭載カートリッジ（別売）の購入は、15ページ記載の付属品で型番などを参照の上、販売店にご相談ください。

7 アロマを使用の場合、アロマトレイを軽く水ですすぐ。

拡散フィンを装着の場合は、拡散フィンも洗ってください。

長時間ご使用にならないとき

外出時や長時間使用しない場合は、タンク、本体内部、水槽などに残った水をすべて捨ててください。

1 タンクの水を捨てる。

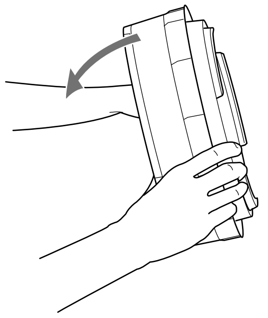
「タンクの水の捨て方」（☞ 7ページ）を参照してタンクの水を捨ててください。

2 水槽の水を捨てる。

「本体の掃除をする（1週間に2回以上）」（☞ 11ページ）の手順1を参照して水槽の水を捨ててください。

3 本体内部に残った水を捨てる。

① 本機を水平方向に置き、フロート（☞ 4ページ）が一番下まで下がっていることを確認してください。
② 電源プラグをコンセントに差し、電源はオフの状態で、電源ボタンを5秒押し続ける。
自動インジケーターが点滅します。
③ 自動ボタンを押す。
急速インジケーターが点滅します。
④ 急速ボタンを押す。
「ピーピー」と音がします。
⑤ 排水方向の矢印を下に向け、本体上部を手前に傾けながら、左右数回動かし、本体内の水を捨てる。



「ピーピー」の音が鳴り始めてから30秒以内に本体内の水を捨てきってください。（「ピーピー」の音は約24秒後に「ピッピッ」に変わり、最後は「ピー」と長い音になります。）
30秒以内に水を捨て切れなかった場合、1分以上経過後、手順②から操作を繰り返してください。(1分以内に繰り返すと自動インジケーター、4Hタイマーインジケーター、急速インジケーター、M加湿量インジケーターが点滅し、操作を繰り返すことはできません。)

操作中、電源ボタンを押すとビープ音が止まりますが、それ以上排水は不可になります。

4 **掃除する。**
「本体の掃除をする（1週間に2回以上）」（☞ 11ページ）の手順2～7を参照して掃除をしてください。

5 **乾燥させる。**
お手入れ後は付着した水を乾いた布で拭き、本体、タンク、パイプを日陰（屋内）で自然乾燥させてください。
除菌機能搭載カートリッジは本体から取りはずし、充分に乾燥させてください。

6 **保管する。**
ポリ袋などの湿気を通さない袋に入れ、湿気が少なく、直射日光が当たらない場所に保管してください。

ご注意
充分に乾燥させないまま収納しないでください。
カビの発生や悪臭の原因になります。

故障かな？と思ったときは

症状	確認事項	対処
“ピピッ”という警報音が5秒間鳴り続き、タンクの湿度インジケーターが赤色に点滅する	タンクに水が入っていますか?	タンクに水を補給してください。
“ピピッ”という警報音が5秒間鳴り続き、操作パネルのすべてのLED（ランプ）が早く点滅する	ダクトホルダーが正しくセットされていますか？	ダクトが正しくセットされていない場合は、正しくセットしてください。 (☞ 5ページ)
“ピピッ”という警報音が鳴り続き、操作パネルのすべてのLED（ランプ）が早く点滅する	ファンが正常に回転していますか？	エアーフィルターが汚れている場合は、エアーフィルターのお手入れをしてください。(☞ 11ページ)
	本体が異常に熱くなっていませんか？	エアーフィルターが汚れている場合は、エアーフィルターのお手入れをしてください。(☞ 11ページ)
操作パネルのすべてのLED（ランプ）がゆっくり点滅する	設置場所の温度が高すぎませんか？または、低すぎませんか？	温度が適切な温度環境で使用してください。
霧の量が少ない	水槽内の水位が高くなりすぎていませんか？	水槽内の水を全て捨て、水の入ったタンクを再装着して再度お試しください。
	本体を傾いた状態で使用していませんか？	本体を水平な場所に置いて使用してください。
	設置場所の温度が高すぎ（低すぎ）ませんか？	水は温度によって霧化量が変動することがありますので、不良ではありません。
	カートリッジ交換直後ですか？	カートリッジ交換直後は霧の量が少なくなることがあります。時間をおくことで正常に戻ります。
	超音波振動部が汚れていませんか？	超音波振動部のお手入れをしてください。 (☞ 11ページ)
霧の量が多い	設置場所の温度が高すぎ（低すぎ）ませんか？	水は温度によって霧化量が変動することがありますので、不良ではありません。
タンクに水が入っているのに、タンクの湿度インジケーターが赤色に点滅する	ふた部分をテープなどで密閉していませんか？	ふた部分を密閉するとタンクから本体へ水が供給されなくなりますので、密閉しないでください。

仕様

型名	HM-C610S			
電源	交流100V 50/60Hz			
適用床面積 [m^2]	木造和室　強：11 m^2（7畳）、急速：17 m^2（10畳）[※1] プレハブ洋室　強：18 m^2（11畳）、急速：27 m^2（17畳）[※1]			
運転モード	弱	中	強	急速（2時間）
消費電力 [W]	25	30	38	42
加湿量 [ml/h][※2]	100	200	400	600
運転音 [dBA]	34	36	38	40
外形寸法 [mm]	直径270 × 高さ105（ダクトを取り付けない場合） 直径270 × 高さ855（ダクトを取り付けた場合）			
質量 [kg]	約3.4（給水前で除菌機能搭載カートリッジを除いた状態）			
電源コード長 [m]	1.8			
タンク容量 [L]	約2.2			
付属品	取扱説明書、保証書、除菌機能搭載カートリッジ*、給水カップ、吸水芯（五個）、拡散フィン、アロマトレイ			
	* 型番	CT-C610		
	外形寸法（mm）	直径90 × 高さ145		

※1 日本電機工業会規格JEM1426に基づく試験方法により算出。
※2 水温が20℃の場合。水温により加湿量が変動することがありますが、これは不良ではありません。

cado